



杉中だより

令和6年度
No.7

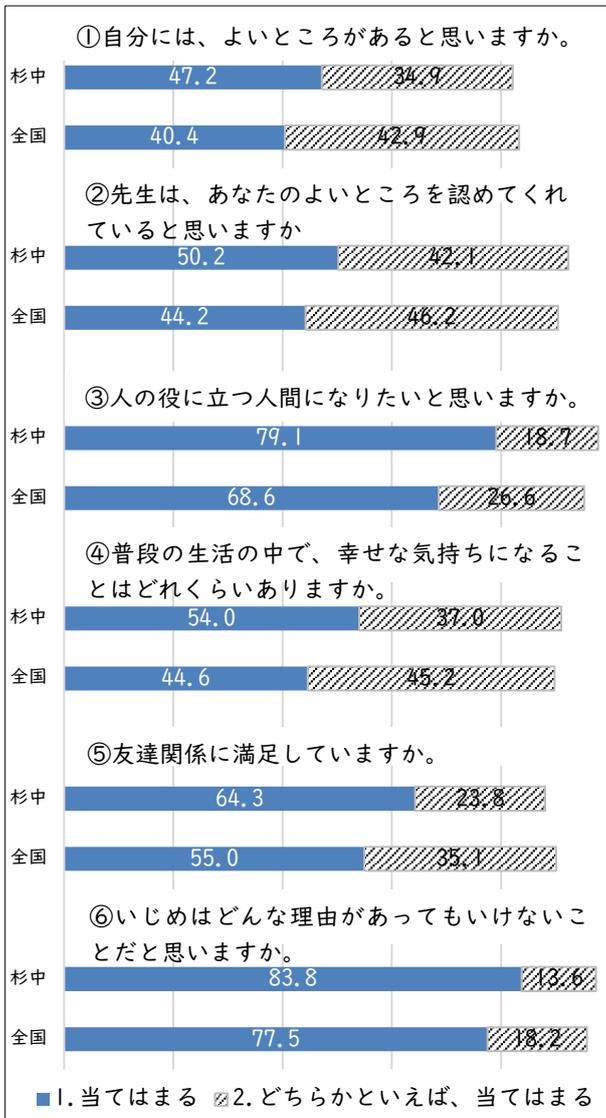


ブログ携帯サイト

「じりつ（自立・自律）・共生・チャレンジ」

枚方市立杉中学校 TEL: 050-7102-9240 FAX: 072-858-8985

☆令和6年度 全国学力・学習状況調査「生徒質問紙」結果から見る杉中の強み



9月9日の全校放送集会でも話題にしましたが、改めて紙面に、一部抽出した結果と分析をお伝えします。

①「自分にはよいところがある」と肯定的に回答する割合は、全国平均をやや下回りましたが、「あてはまる」の数値は、全国を約7ポイントも上回っています。また、②番より、先生からよいところを認められていると感じる生徒は、全国平均を超えて、92.3%もおり、強い肯定「あてはまる」（青い帯）の数値で比べても、全国平均よりも6ポイントも高くなっています。

③番の「人の役に立ちたい」と思っている人は、非常に高い割合を示しています。

④番の「普段幸せな気持ちになる」割合も全国を上回りました。ここでも「よくある」とする青い帯は、全国よりも9.4ポイントも高いことは良好な結果といえます。背景として、⑤番の交友関係の満足度や⑥の結果にみられるように、いじめを絶対許さないという意識の高さやその風土がつながっているのでしょう。

これらの項目は、良好さがうかがえるものを抽出していますが、おおむね肯定値が全国平均を上回ることに、強い肯定（青い帯）が有意に上回っていることは特に良いと分析します。

これらを踏まえて、皆さんには次のことを期待します。まず、「人の役に立ちたい」と強く思っているので、その気持ちをそのままに、例えば、勉強で困っている隣の仲間に声をかける、あるいは、学校生活で困りごとを持っている仲間に、勇気をもって手を差し伸べるといった行動をとりましょう。そうすることで、助けた仲間から感謝されたり、先生たちから承認されたりして、自分の中の「役立ち感」が高まります。それにより、さらに自信がつくことになり、①番にある「自分にはよいところがある」と、より実感できるよう

になることが期待できます。

①番は、いわゆる「自己肯定感」といった言葉で表されるものです。自分をありのままに受け入れる感覚のことです。なぜ、自己肯定感が高い方が良いかというと、自己肯定感が高まると、感情が安定し、物事を肯定的に捉え、何事にも意欲的になれるといわれています。学校目標の「じりつ・共生・チャレンジ」の根幹となるものと言えます。

ずばり「自己肯定感」を高めるには、他の人から感謝されたり、承認されたりして、自分が役に立つという経験をすることが有効だとされています。

★社会性の基礎となるもの <国立教育政策研究所 生徒指導リーフ『自尊感情？それとも自己有用感？』より抜粋>

「人（他の子供）とかかわりたい」と思う気持ちは、自らの体験によるのみ、獲得されるものです。他の子供と一緒に遊んだりすることを通して、「人とかかわることって楽しい」「人とかかわることって苦痛なことではない」と感じるところから「人とかかわり」は始まります。それが、「社会性の基礎」を形づくっていくのです。

年少者の課題は、一言で表現するなら、「人とかかわることが好き」ということ、集団活動に進んで参加できることです。そして、年長者になるにつれ、そうしたかかわりを通して、進んで協力できた、自分から働きかけができた、誰かの役に立つことができた、という集団の一員としての自信や誇りの獲得が課題となります。